

	あり（具体的な処置： _____ ）																
出来事が発生した背景・要因	なぜ、どのような背景や要因により、出来事が起きたか。																
（当てはまる要因を全て）	<p>【人的要因】 判断誤り 知識誤り 確認不十分 観察不十分 知識不足 未熟な技術 技術間違い 寝不足 体調不良 慌てていた 緊張していた 思いこみ 忘れた その他(_____)</p> <p>【環境要因】 不十分な照明 業務の中断 緊急時 その他(_____)</p> <p>【管理・システムの要因】 連携（コミュニケーション）の不備 医療材料・医療機器の不具合 多忙 その他(_____)</p>																
出来事の影響度分類 （レベル0～5のうち一つ）	<table border="1"> <tr> <td>0</td> <td>エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、対象者には実施されなかった</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>対象者への実害はなかった（何らかの影響を与えた可能性は否定できない）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>処置や治療は行わなかった（対象者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた）</td> </tr> <tr> <td>3 a</td> <td>簡単な処置や治療を要した（消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など）</td> </tr> <tr> <td>3 b</td> <td>濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など）</td> </tr> <tr> <td>4 a</td> <td>永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害は伴わない</td> </tr> <tr> <td>4 b</td> <td>永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害の問題を伴う</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>レベル4 bをこえる影響を与えた</td> </tr> </table>	0	エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、対象者には実施されなかった	1	対象者への実害はなかった（何らかの影響を与えた可能性は否定できない）	2	処置や治療は行わなかった（対象者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた）	3 a	簡単な処置や治療を要した（消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など）	3 b	濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など）	4 a	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害は伴わない	4 b	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害の問題を伴う	5	レベル4 bをこえる影響を与えた
0	エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、対象者には実施されなかった																
1	対象者への実害はなかった（何らかの影響を与えた可能性は否定できない）																
2	処置や治療は行わなかった（対象者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた）																
3 a	簡単な処置や治療を要した（消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など）																
3 b	濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など）																
4 a	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害は伴わない																
4 b	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害の問題を伴う																
5	レベル4 bをこえる影響を与えた																

介護職員 報告書記入日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

医師・連携看護職員の助言等	医師又は看護職員が出来事への対応として実施した医療処置等について
	介護職員へ行った助言・指導内容等について
	その他（今回実施した行為で介護職員の対応として評価できる点など）

医師・連携看護職員 報告書記入日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日